

続・ふるさと

こぼれ話

梨下駄とデンプクロ

本町の名産品の一つに芳賀梨がある。梨のせん定棚しぼり、交配てき果作業は梨の品質にかかわる重要な作業である。

昭和40年代までは、てき果作業が終わる後から袋掛けをおこなった。これは虫や病害から守るためである。袋は、ロー袋、新聞紙の袋、電話帳で作ったデンプクロ（写真左）などで、青梨は二重でロー袋とデンプクロをかけ、赤梨は一重のデンプクロをかけた。しかし、袋掛けの手間賃が高くなり人員を確保するのに困るようになった。

実も大きく高値で売れ日持ちもよいことから市場からの注文が増えた。その後、農薬の開発も進み、病害虫の防除が簡単になるようになったので無袋梨を試みる農家が増えていった。

身長の高い人は、せん定やてき果、袋がけなどが大変だったので高下駄を履いて作業を行った。これは梨専用であり、土に埋まらないように歯に台が付いている。（写真右）

現在では袋かけこそ行われなくなったが、せん定や棚しぼりなどに用いられている。

現在の高下駄はゴム草履を発泡スチロールの台にはめこんだもので農協

などで売られている。このほか、ビニールケースを台として使用していることもある。



▲デンプクロ ▲梨下駄
郷土資料館に展示されています

圃生涯学習課総合情報館
推進係
☎028(677)2525

第25回

編集後記

□寒い日が続いた後に急激に暖かくなったために、今年には桜の開花が早まっているようです。桜の開花には寒暖の差が大きく影響しているそうです。

□4月になって、新たに社会人となられる方、進学された方にとっては、新しい環境に胸躍らせているところだと思いますが、環境の変化のギャップに「五月病」などになってしまう方もいるのかもしれない。逆境に弱くなってきたと言われます。逆境に弱くなってきたと言われます。逆境に弱くなってきたと言われます。

□そんな自分は逆境に強いかわいられると微妙ですが。

(田舎育ちの中年)



Carduelis spinus
(全長12.5cm)
(アザミを好む鳥)

アトリ科の間は、色彩が豊かで色鮮やかな体色を持つものが多い。赤い鳥（アトリ・アカマシコ等）、黄色い鳥（カワラヒワ・マヒワ等）、多色の鳥（ウソ・イカル等）など、日本では17種が確認されている。世界中に分散して、日本では冬鳥だけである。

町内でみられるのは早春からサクラの花が咲き始まる前であることから、厳寒期には当町より南の温暖なところで越冬して徐々に北上して来るのではないだろうか。

小型の野鳥でスズメより一回り小さく、黄色さが目立つ野鳥である。

山地の林に群れ(20~50羽)で生活し、カバノキやスギの種子を食べる。春には雑木林でコナラやハンノキの種子や花芽を食べる。

鳴き声はジュインまたはチューインとかジクジクと鳴き、さえずりはツッピン・チュクチュクジュイと複雑である。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120(753)898
- 芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com